

JCF J2 DIRTFREAK 雫石 STAGE レースレポート

大会名：JCF J2 DIRTFREAK 雫石 STAGE

期日：2013年8月31日（土）

会場：雫石プリンスホテルスキー場 XC

特設コース

天気：雨/曇

気温：25℃

競技種目：男子エリート 4.0km×6周

出場者数：27名

レース結果：優勝



.....

前戦の全日本選手権大会から1カ月程の期間が開いてのJ2 雫石 STAGE。今回のレースはジャパンシリーズの傘下、1つカテゴリーが下がるJ2 レース。今シーズン初となる東北地域でのレース開催。雄大に広がる雫石スキー場は過去にアルペンスキーの世界カップや世界選手権大会なども開催した実績がある有名なスキー場。来シーズンからJ1 カテゴリーへの昇格を予定している大会であるため、チームと相談して下見を兼ねて出場を決めた。全日本から今レースまでMTB 主要大会があまりなく、1カ月程はレースから遠ざかっていた。しかし計画的にトレーニングを継続し、全日本選手権の敗戦で感じた課題や反省などを意識しながら後半戦に向けてトレーニングに励んだ。

今レースであるJ2 雫石 STAGE に向けて特別な調整などは行わず、トレーニングの一環と位置付けレースに挑む。コースは約4km に設定されており全体的にコース幅は広く、登り下りのバランスが取れた高速コース。一見単調であるように思えるが、MTB の基本スキルが必要とされる誤魔化しのきかないコースに仕上がっている。数日前から東北地方を襲った雷雨の影響もあり、コースは完全マッドコンディションでドロドロのコネコネ状態。登り下り共にスリッピーな場所が数多く点在し、より難しい状況へと変貌していく……。長時間の移動も影響してか、前日の試走では脚が非常に重く、体調もイマイチ優れないためコースを3周程走り会場を後にした。しっかりと食事を取り、身体のケアをして早めの就寝。

レース当日も朝から雨模様……。高まるテンションとは裏腹にコースコンディションはどんどん悪化していく。バイク、衣類の雨&泥対策を入念に行いレースに向けて準備を進めていった。男子エリートのスタートは13時10分。参加人数は多くないが、ある程度の主要メンバーは揃っている。いつもと同じルーティンでアップを始め、集中力を高めスタートを待つ。

号砲一発。よい反応で踏み出すものの、ペダルキャッチをミスしてしまい集団に埋もれてしまった。焦らず冷静に前方へと上がれるように少しずつポジションを上げていく。しかし激坂登りの区間はコースが荒れていてバイクに乗れず押し、押し、押し……。足首まである深く練られた泥に悪戦苦闘

するものの、IRC タイヤの STINGO (雨用タイヤ) は乗車率を上げてくれる。1 周目の終盤で先頭に立ち満を持してアタック。これがうまく決まり、後続とは 30 秒程の差が付いた。まだレースは序盤だが、積極的な走りを心掛け自分を追い込んでいく。マッドコンディションにはいつも苦戦するものの苦手意識はまったくない。周回を重ねていくと自分の得意なパートや苦手なパート、毎周回ミスをしてしまうパートなどが浮き彫りとなる。安全に！ではなく、冷静沈着、且つ攻撃的に攻める走り。3 周目が終了し、後続との差は 5 分。ここからは自分のペースでラップを刻み自分と向き合う。明らかなペースダウンはないものの、ラインを誤ったり、大きなミスをすればラップタイムが極端に落ちてしまう。出来る限り乗車したいが明らかに乗れない区間もある。バイクの乗り降りを素早く繰り返していくといつもと違う筋肉部分に負担が掛かる……。呼吸よりも筋肉にかかる負荷が辛く、得意の登りでも精彩を欠きペースを上げられない。フィードでボトルの水を飲み干し、集中力をキープ。もう後続との差を気にせず、トラブルなくゴールするのみ。ファイナルラップでは監督からもう 1 段階ペースアップの指示。持てる力と技、気力と体力をすべて出し切り、ファイナルラップで最速のラップを叩き出した。最後の最後まで集中しもがきながらトップでゴールを通過。

何度味わっても最高に気持ちのいい瞬間だ。温かく向かい入れてくれるスタッフの笑顔を見ると、こちらも自然と笑みが出る。献身的に支えてくれるチームスタッフ、常に最善の選択をして下さるサプライザーの皆さま。本当に心の支えであり、自信を持ってスタートに立ちゴールに向かえる。小さな積み重ねと向上心が今の結果に結び付いていると思う。次戦はいよいよ J シリーズ後半戦、秋の富士見大会。J シリーズも残り 2 戦。1 戦 1 戦を悔いなく戦い、2 年連続 J シリーズチャンピオンに輝きたい。

たくさんサポート、応援本当にありがとうございました。次戦も自分らしい熱い走りができるように頑張りますので応援よろしくをお願いします。

MIYATA-MERIDA BIKING TEAM 齊藤 亮

【レース結果】

1. 齊藤 亮 長野県/MIYATA-MERIDA BIKING TEAM
2. 合田正之 埼玉県/サイクルクラブ 3UP
3. 松本 駿 長野県/TEAM SCOTT
4. 恩田祐一 新潟県/arc スキークラブ/MERIDA
5. 江下健太郎 福岡県/BOMA RACING
6. 佐藤誠示 埼玉県/

【使用機材】

バイク : MERIDA / BIG.NINE CARBON TEAM-D

フロントフォーク : DT-SWISS / XMM100-29 TS REMOTE TAPER



クランクセット：SRAM / XX1

サドル：SELLE ITALIA SLR XC

ホイール：DT-SWISS

タイヤ：IRC TIRE / STINGO XC TUBELESS READY (29X2.00)

シューズ：NORTHWAVE / エクストリームテック MTB S.B.S

ヘルメット：KOOFU/WG-1

サングラス：adidas eye wear / evil eye halfrim pro / グレイメタリック

ケミカル：HOLMENKOL

斉藤選手のコメント

天気予報を事前に確認していたので、雨&泥対策はバッチリでした！（祐一も！）ウェア、シューズ、ヘルメット、そして今回は給水ボトルにもハイテクプルーフ（ボトルは効果があったかわかりませんが、泥の付着は少ない気がしました。）。画像を見て分かるように、ウェアの背中部分に泥は飛んでいますが、染み込んだり広がったりしていません。サングラスはノーフォグ（いつもは新品レンズでしたが、今回はあえて古いレンズでテスト。）。バイクフレームはお決まりのスポーツポリッシュからのアクアスピード。チェーンはいつものコーティングを少し変えて、ベースオイル（ルーベエクストリームの原液）ドブ漬けからのルーベエクストリーム。アップ終了後にナチュラルバイクルーベをチェーン全体にしみ込ませコーティングしました。

泥レースが楽しくなる程、ホルメンコールのケミカル類は充実しているのでバリエーションが尽きません。自分だけのアドバンテージ。これはレースを想定して考えることから始まっているのです。

強い選手には理由がある。それを今回は完璧に実行出来たレースだったと思います。

メーター：POLAR / RS800CX BIKE

エネルギージェル：shotz ENERGY GEL

ドリンク：Electrolyte shotz

レースウェア：WAVE ONE

レースソックス：NORTHWAVE / Black-White

レースグローブ：KABUTO / PRG-3

アンダーウェア：CRAFT

インソール：SUPER feet / Black

アパレルウェア：Columbia

ザック：deuter

テーピング：New-HALE

